

小峰城跡

国指定史跡

幾多の歴史をみつめた名城



白河藩主7家の家紋



丹羽家



松平家
(榊原)



本多家



松平家
(奥平)



松平家
(結城)



松平家
(久松)



阿部家



白河関跡(国史跡)

奥州三古関の一つ。奈良・平安時代に人や物資の往来を取り締まっていたとされ、鹿関後「歌枕」として多くの歌人の歌に詠まれました。憩いのひとときを家族揃って楽しめる「白河関の森公園」も隣接しています。



南湖(国史跡・名勝)

南湖は松平定信の「士民共楽」の理念のもと、一八〇年に築造された日本最古と言われる「公園」です。雄大な那須連峰、関山を眺望に取りこみ、松・桜・楓などが四季折々の美しさを織りなします。



翠楽苑

定信の庭園理念の精神を引き継ぎ、日本文化の伝承を体現する施設としてつくられた日本庭園。園内には、呈茶が楽しめる書院造りの「松楽亭」、茶室「秋水庵」もあります。

小峰城跡案内図

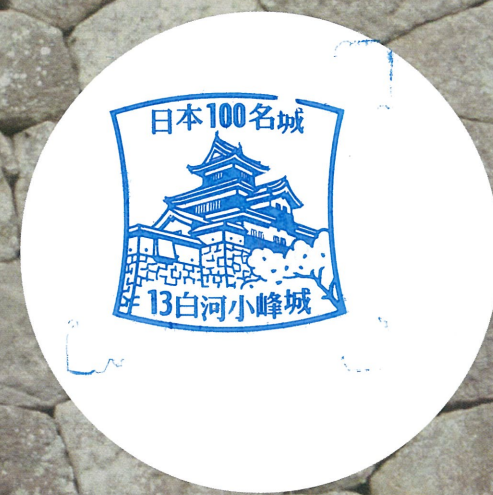


白河市産業部観光課

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1
Tel.0248-22-1111 Fax.0248-24-1844
E-mail:kanko@city.shirakawa.fukushima.jp

公益財団法人 白河観光物産協会

〒961-0074 福島県白河市郭内1番地2
Tel.0248-22-1147 Fax.0248-22-0117
E-mail:shirakawakankou@shirakawa-22-1147.jp
URL:http://shirakawa315.com



ご来場記念にスタンプをどうぞ

<日本100名城スタンプ設置場所>

小峰城三重櫓・二ノ丸茶屋

白河集古苑・白河観光物産協会(白河駅)

<小峰城スタンプ設置場所>

白河観光物産協会(白河駅)

威風堂々

江戸時代に築かれた石垣の美しさと
端正な三重櫓の佇まい
伝統の技が息づく造形の織りなす名城

【小峰城の歴史】

小峰城は結城親朝が十四世紀中頃、小峰ヶ岡に城を構えたのが始めと言われています。

江戸幕府成立後、白河地域が会津領であった頃に整備された城郭や城下町を、寛永四年（一六二七）に初代白河藩主となった丹羽長重が、大改修を行い、現代につながる白河のまちの基礎ができていきました。小峰城は四年の歳月を費やし、「奥州の押え」にふさわしい石垣を多用した梯郭



【三重櫓】

櫓は、「矢倉・矢蔵」とも書き、もともと武器・食料の貯蔵や防衛を目的として造られた建物です。小峰城の三重櫓は、本丸の北東部に建つ三層三階の櫓で、城郭の象徴となっています。外観はそれぞれの階の半分を板張りとする「下見板張り」で、耐久性が高いとされます。

平成三年、「白河城御櫓絵図」や発掘の成果をもとに、木造で忠実に復元されました。

式（はしご状に郭が設けられている）の平山城として同九年に完成しました。

その後、榊原・本多・松平（奥平）・松平（結城）・松平（久松）、阿部の六家十九代が居城としましたが、慶応二年（一八六六）阿部家が棚倉へ移されると小峰城は空き城となり、白河は幕領、新政府領と変遷します。

同四年正月に起きた戊辰戦争は白河にも及び、新政府軍と奥羽越列藩同盟軍が約三ヶ月にわたり戦いました。そのため、小峰城内の建物や城下町の一部が焼失しました。



前御門

【今に残る戊辰の弾痕】

白河における戊辰戦争当時の激戦地であった松並稻荷山（松並稲荷山）の杉の大木（樹齢約四百年）を復元用材として利用した際、いくつかの鉄砲の鉛玉や弾傷が発見されましたがそのままだ加工され、現在柱や床板、腰板などにその痕跡を見ることが出来ます。



鉄砲の鉛玉

【おとめ桜】

本丸の石垣を積む際、人柱とされた娘の霊を慰めるために、一本の桜の樹を植えたといわれています。三重櫓の隣には、そのことを伝える小さな石碑が建っています。もとの桜は戊辰の戦火に巻き込まれて焼失しましたが、春になると新たに芽吹いた「おとめ桜」が艶やかに城内を彩ります。

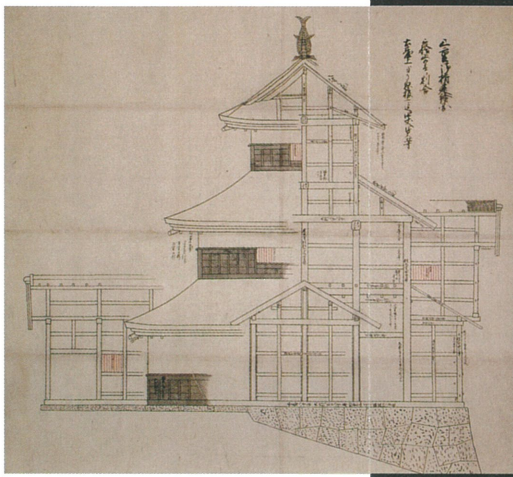


おとめ桜

【白河城御櫓絵図】（県指定重要文化財）

この絵図は、時の藩主松平定信が、文化五年（一八〇八）、家臣の南合義（なんがうぎ）之らに命じて城郭内の建築物を実測させ、作成した絵図（全二巻）です。城内の櫓および城門などの配置図と実測図、本丸御殿などの間取り、寸法、材料、屋根の勾配などが詳細に記されています。

城内のほとんどの門・櫓・建築物の実測図が残されており、同時期に作成された「奥州白河城下全図」（市指定重要文化財）とあわせ、一九世紀初頭の小峰城の姿が詳細に分かる貴重な資料です。



「白河城御櫓絵図」より三重御櫓建絵図

の家紋入り瓦を含む大量の瓦類や銃の破片、金属製品（和釘など）、陶磁器、木材、漆喰などの出土遺物を参考に、各所の使用材料を入手し、製作可能な範囲で復元を行いました。

【三重櫓・前御門の復元にあたって】
戊辰戦争で焼失して以来、約百二十年ぶりに三重櫓を復元する作業にあたっては、歴史資料の調査をはじめ、城郭絵図の検証を行い、さらに三重櫓・前御門の発掘調査によって三重櫓の礎石等が確認され、「白河城御櫓絵図」などの図面とほぼ一致することが分かりました。また、丹羽家の紋「直達」や松平（久松）家の紋「梅鉢」、最後の藩主阿部家の紋「達鷹羽」など



三重櫓跡より出土した家紋入り瓦

白河の支配変遷				
	領主	年号	主な出来事	
鎌倉 ↳ 室町時代 結城家 約400年間	結城朝光	文治5年（1189）	結城氏の祖。源頼朝から奥州藤原氏攻めの功により白河を領地として与えられる。	
	祐広	13世紀後半	白河結城氏の祖。結城氏より分家しはじめて白河に下る。搦目山に白川城を築く。	
	宗広	元弘3年（1333）	新田義貞とともに鎌倉を攻めて幕府を滅亡させる。後醍醐天皇に重用され、南朝に尽くす。	
	親朝 ↳ 義親	14世紀中頃 ↳ 天正18年（1590）	宗広の子。小峰ヶ岡に小峰城を築く。	
			豊臣秀吉の小田原攻めに参加しなかったため、領地を没収される。以後、白河結城氏は伊達家・佐竹家などの家臣となる。	
安土桃山 ↳ 江戸時代 会津領 38年間	蒲生氏郷	天正18年（1590）	秀吉に会津92万石を与えられ、白河もその領地となる。	
	秀行	慶長3年（1598）	御家騒動により宇都宮に減転封される。	
	上杉景勝	慶長3年（1598） 慶長6年（1601）	会津を領したが関ヶ原の戦い後米沢に減転封。	
江戸時代 7家 21代 240年間	蒲生秀行	慶長6年（1601）	再び会津60万石に移される。	
	忠郷	寛永4年（1627）	嗣子なく没したため領地を収められ、白河は会津領から独立する。	
	丹羽長重	寛永4年（1627）	棚倉より転封。小峰城を大きく改修し、現在残る城郭や城下町の基礎を築く。円明寺地内に墓所がある。	10万石
	光重	寛永20年（1643）	二本松へ転封。	
	榊原忠次	寛永20年（1643） 慶安2年（1649）	館林より転封。徳川四天王榊原康政の孫。松平姓を許され、将軍補佐を命じられる。姫路に転封。	14万石
	本多忠義	慶安2年（1649）	越後村上より転封。徳川四天王本多忠勝の孫。	12万石
	忠平	天和元年（1681）	宇都宮へ転封。	10万石 （忠平が弟に分知）
	松平忠弘	天和元年（1681） 元禄5年（1692）	宇都宮より転封。徳川家康の曾孫。松平姓を許される。御家騒動で山形に減転封。	15万石
	松平直矩	元禄5年（1692）	山形より転封。徳川家康の曾孫。子の基知とともに円明寺地内に墓所がある。	15万石
	基知			
	義知	寛保元年（1741）	姫路へ転封。	
	松平定賢	寛保元年（1741）	越後高田より転封。	
	定邦			11万石
	定信	天明7年（1787）	幕府老中就任（～寛政5年）、寛政の改革を断行。徳川吉宗の孫。	
	定永	文政6年（1823）	桑名へ転封。	
	阿部正権 ↳ （5代略） 正外	文政6年（1823）	武蔵忍（行田市）より転封。	10万石
		元治元年（1864）	老中に就任（～慶応2年）、諸外国の開港要請を受けて兵庫開港を決断するが、朝廷の反発で老中罷免、隠居を命じられる。	
	正静	慶応2年（1866）	父正外の強制隠居により相続し、棚倉転封を命じられる。	

※石高1万石未満は省略

【白河集古苑】

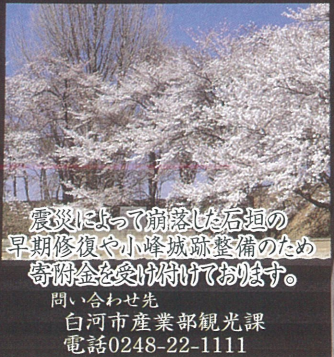
中世に白川城や小峰城を本拠として白河周辺を治め、最盛期には南東北の盟主的存在であった白河結城家と、近世の最後の白河藩主となった徳川譜代大名の阿部家の両家に伝えられた貴重な古文書や美術工芸品を保存、展示しています。特に結城家の古文書九十通は国の重要文化財に指定されています。

館内は「結城家古文書館」「阿部家名品館」の2つの展示室が設けられています。



白河集古苑

小峰城城郭復元基金



震災によって崩壊した石垣の
早期修復や小峰城跡整備のため
寄附金を受け付けております。
問い合わせ先
白河市産業部観光課
電話0248-22-1111